

シニア文武両道ひと休み

伊藤 二郎

生きる力をつける

このコロナ騒ぎの中で2020年4月11日傘寿の誕生日を迎えた。平常ならば、この日、九州宗像市にあるグローバルアリーナで紫パン東西対抗戦に出場し、シニアラグビーを楽しんでいたはずだ。

2月21日以来、電車やバスの交通機関を使っておらず、2月19日の懇親会以来、会合に参加していません。2月29日からは行事が一切なくなり、完全フリーの時間を家内と過ごしています。世の中大変な騒ぎですが、この自由時間をどう活かすかで、個人差が大きく出ることと思います。家族内で喧嘩をしている場合ではない。自分の可能性を試し、将来の生きる力をつけるときであろう。

長男の家族から、うれしい誕生日祝いを受け取った。一家(孫・長女新中学一年生、長男小学四年生)の子供たちは、学校閉鎖になってから、嫁に教えられ、ミシンが好きになったとのこと。誕生日祝の贈り物は長男が、「コースター」、長女が本に挟む「しおり」、嫁が「マスク2つ夫婦に」ともらいました。お礼の電話で、嫁もこの時期仕事は少なくなったようで、子どもと一緒にいられ、喜んでいました。「いままでにはこのように子供と一緒に楽しめる時間はなかった」と。近くの人々にもプレゼントをしているとのことでした。

先日、山梨の中学生が手作りマスク600枚を山梨県に寄付したことが記事となっていました。材料費の8万円は、小さい時から貯めた小遣いだったそうです。マスク不足を騒いでいる中で心温まる話です。



写真1 不惑倶楽部ジャージーとボール

今がチャンス

元巨人軍の仁志敏久¹⁾の随筆の中で「先が見えないのなら、今を見るしかない。今できることを頑張るしかない。どんなに素晴らしいプレーヤーでも試合に向かうまでは準備しかできない。今回の選抜高校野球の中止に泣いた球児たち、この無念を踏みつぶし、強くたくましい選手になって次のチャンスに臨んでほしい。」また、この随筆の中に「メジャーなどの考え方では、怪我をしてもレベルアップを戻ってくることを目標にする(立花龍司・元メジャートレーナー)」と書かれています。貴重な意見だと思います。

齊藤薫(美容ジャーナリスト/エッセイスト)²⁾「今がチャンス。生き方をリセットするいい機会なのかもしれないと思った。人に会わず、外出せず、ほとんどの時間を家で過ごす。いままで走り続けていた人たちに立ち止まる時間を与えた。すべてを見直す猶予を与えた。自分の生き方をゼロに戻してイチから立て直す、予期せぬエネルギーを与えてくれるはず。自分の人生において一番大切なものは何なのかをもう一度見極められるはず。毎日を一からきちんと生き直す、今しかないほどのチャンスである。暇つぶしの方法を探している場合ではない。」

五味太郎(絵本作家)³⁾「ガキたちには、むしろこれがチャンスだぞって言いたいな。何がつまらなかったのか、本当は何をしたいのか、ニュートラルに問いやすいときじゃない?世界の全体像は誰もわか

らない。せつかくなら、前よりよくしましょうよ。不安定だからこそよく考える。もっと言えば、不安とか不安定こそが生きてるってことじゃないかな。」

一日のスケジュール

2019年11月「める碁会」随筆欄に掲載された小生の「シニア文武両道」は現在の状況では出来ません。しかし、いずれ騒ぎが収まれば、再開できるものと思ひ、準備に余念がないこの頃です。生まれて初めてこんな自由な時間がたくさん、持てたとは！最近は自由な時間は月2~3日だったのが約30日もあるのです。

朝起きるとメールの処理（今はほとんどない）、英文の暗記（英英辞典）、論語の暗記、ストレッチ、自転車（野川まで往復30分）で論語の復唱、ジョギング・体操、午前中は技術者としての懸案処理、午後は、読書と記録「雄気堂々（城山三郎）、渋沢栄一（渋沢秀雄）、論語がわかれば日本がわかる（守屋淳）」、囲碁研究、夕方、める碁会での対戦と時間割を決めて実施しています。21時には床に入ります。

英文の暗記10年弱、論語の暗記4年をやっていると、暗記とはどういうものかがわかるようになってきました。覚えるのに時間がかかります。忘れます。意味がわからないあるいは理解ができないと覚えられません。ただし、最初は意味がわからなくても突然わかることがあります。覚えたものを関連づけると出てきます。

英英辞典は電子辞書（ロングマン現代英語辞典）です。書棚の片隅に「ロングマン英和・和英基本表現辞典」を見つけました。この辞典を使い、覚えた英文の英単語のチェックを始めました。この辞典を見てみると、自分の暗記していることの方がずっとレベルが高いことがわかりました。過去約10年覚えた英文が今ではほとんど忘れていたので、出来るだけ関連づけし、すぐ出てくるようにしたいと思ひます。英語を勉強する目的はそれぞれですが、二人の英国人の先生を得られ、また男女の友人が増えてきました。

論語は約550の項目があります。そのうち約200項目を覚えしました。何とか半分位は覚えたいと思ひます。論語の中に「詩300を覚えても世の中の事で役立たなければ、しょうがない」とあります。しかしながら、覚えることで何か「ものさし」として役立つ、世の中のことがわかることがあるのではないかと思います。

囲碁を楽しむ

国鉄同期の橋野武さん（める碁会会長、第14期める碁本因坊）に勧められ、「める碁会」と「緑友会」に入会しました。「める碁会」は入会して数年になります。この会のよいところは、今回のように自宅に籠っているとき、囲碁が打てることや一手ごとに個人的情報交換ができることです。

一昨年、入会した緑友会（会長：塩沢美義）は、20年以上継続して活動している歴史のある会です。緑星囲碁学園（菊池康郎代表）出身のプロ棋士を指導碁に招聘しています。この会の楽しみは、指導碁が受けられることと指導棋士の解説、さらに、AIを活用した橋野さんの解説があることです。緑友会は神田の碁会所で毎月第一金曜日に開催されています。希望者は参加して下さい。棋力の向上が目に見えるようになります。



写真2 碁盤のある書斎

このコロナ騒ぎで、時間が出来、「囲碁研究」を読み始めました。一日一時間と限っています。この誌には、段級位認定テストがあり、毎月応募するようになりました。まだ正解率は7割～8割ですが100点を目指しています。

将棋の藤井聡太七段が、「実力を上げることが一番大事。目先の結果にはこだわらず、実力があれば結果は後からついてくる」という言葉に励まされます。日頃勝ち負けに拘りがちですので、実力を上げることを目標にしたいと思います。

コロナ騒ぎで大変ですが、多くの方々が自分の生き方を見直して力をつけ、この騒ぎが治まったとき、その力を発揮することを期待しています。この時間を有効に使うかどうか、個人、組織、国などで大きな差が出てくるものと思います。

(原稿受付 2020.4.18)

引用資料

- 1) 仁志敏久：センバツ中止次の目標を、日本経済新聞、2020年4月7日、33面、スポーツ欄
- 2) 齊藤薫：予定表の予定でごまかしていた「心の充足度」が明らかになる今こそ、毎日を作り直すチャンスと考える、朝日新聞、2020年4月11日、16面、広告欄
- 3) 五味太郎：五味さんから「ガキ」たちへ、朝日新聞、2020年4月14日、19面、生活欄